

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成28年10月20日(2016.10.20)

【公開番号】特開2015-82818(P2015-82818A)

【公開日】平成27年4月27日(2015.4.27)

【年通号数】公開・登録公報2015-028

【出願番号】特願2013-221303(P2013-221303)

【国際特許分類】

H 04 M 1/00 (2006.01)

H 04 M 1/03 (2006.01)

【F I】

H 04 M 1/00 V

H 04 M 1/03 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年9月5日(2016.9.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

手首への装着部分と、前記装着部分に設けられた軟骨伝導振動源を有し、前記軟骨伝導振動源は着信バイブレータの振動源として共用され、軟骨伝導のために振動するときは振動覚を起こす低周波数域の振動成分がカットされることを特徴とする腕時計型送受話装置。

【請求項2】

前記軟骨伝導振動源が着信バイブレータのために振動するときは可聴音周波数域の振動成分がカットされることを特徴とする請求項1記載の腕時計型送受話装置。

【請求項3】

前記軟骨伝導振動源が軟骨伝導のために振動するときは振動覚を起こす限度以上の振動を禁止するリミッタを設けたことを特徴とする請求項1または2記載の腕時計型送受話装置。

【請求項4】

マイクと、手首周りの方向について前記軟骨伝導振動源と前記マイクとの間に振動の伝達を防止する緩衝帯とを有することを特徴とする請求項1から3のいずれかに記載の腕時計型送受話装置。

【請求項5】

スピーカと、指向性可変マイクと、前記軟骨伝導振動源を使用するか前記スピーカを使用するかで前記指向性可変マイクの指向性を切換える制御部とを有することを特徴とする請求項1から4のいずれかに記載の腕時計型送受話装置。

【請求項6】

前記装着部分が装着された手を耳軟骨に接触させる使用方法の説明情報の提供手段とを有することを特徴とする請求項1から5のいずれかに記載の腕時計型送受話装置。

【請求項7】

前記軟骨伝導振動源の振動を手首周りに伝達する伝達部とを有することを特徴とする請求項1から6のいずれかに記載の腕時計型送受話装置。

【請求項8】

手首周りへの締付力を調節する調節手段とを有し、前記調節手段は前記軟骨伝導振動源が使用されるときに前記締付力を強化することを特徴とする請求項1から7のいずれかに記載の腕時計型送受話装置。